トラストネットワークはボランティアが皆様の声や情報をお届けするミニコミ紙です。
本紙カラー版を https://www.setagayatm.or.jp/trust/pub/pdf/tn85.pdf にてご覧下さい。

…ボランティアがつくるニュースレター…

トラストネットワーク

発　行…トラスト通信ボランティア
問合せ…(一財)世田谷トラストまちづくり
〒156-0043 世田谷区松原　6－3－5
Tel: 03-6379-1620　Fax: 03-6379-4233
https://www.setagayatm.or.jp/

No.85　　2019年９月

生きものを呼ぶ

「ちょこっと空間」づくり講習会

７月６日、午後１時30分から経堂南地区会館において、生きものを呼ぶ**「ちょこっと空間」**づくり講習会が(一財)世田谷トラストまちづくりの小林係長の司会により、開催されました。

最初に、世田谷区の山梨みどり政策課長の挨拶の後、担当者から、生物多様性地域戦略である「生きものつながる世田谷プラン」のリーディングプロジェクト(先導的な取り組み、いわば最初の一歩)の説明があった後、本日の講師、泉　健司氏の講義が始まりました。

長野県白馬村の白馬八方尾根スキー場は、長野オリンピックの際にはアルペンスキー等の競技会場となった所ですが、植物や生き物が保護されているため、夏の今頃は、沢山の美しい高山植物が花を咲かせ、また、色々な生き物が生活をしています。

ところで、街の中ではこのような沢山の花や生き物が少なくなりました。それで、窓辺から自然の暮らしを始めるため、また、生物の多様性の回復のためビオトープガーデンを試みたいと思います。

ところでビオトープって何だろう。それは、地元の生き物たちの住み家をつくり、一緒に住みたいということです。一緒に住みたいと言っても、生き物には色々な植物が必要です。

スズメやミツバチには何が必要か。例えば、花が咲いている植物と、花が咲かない植物のうち、どちらに多くの生き物が集まるか。

芋虫は来ないけれども、チョウやハチが集まる花壇はどれか。

① 多くの花を咲かせている花壇
② 一重咲きの花が多い花壇
③ 四季咲きの花が多い花壇

八重咲の花は、蜜がないので、チョウたちは来ません。

小鳥やチョウが集まる庭にするには、時々、草花を植え替えることです。また、庭に実のなる草花や木を植えましょう。ひまわりの実はカワラヒワが、エゴノキの実は、ヤマガラやシジュウカラの好物です。

鳥の好きな樹木を植えると、思わぬプレゼントを貰えることがあります。それは、どこかで、珍しい樹木の実を食べてきて、その庭に種を落として行ってくれるので、庭に思わぬ木の芽が生えるということです。

次に、トンボと野鳥のために睡蓮鉢

85号の目次

「ちょこっと空間」づくり講習会・・・・１
同上、あと始末記・・・・・・・・・・３
フラワーランドの夏・・・・・・・・・４
世田谷の街中アートⅣ・・・・・・・・６
かわらばん・・・・・・・・・・・・・８

を作りましょう。まず、木の枝等を用いて鉢の真中に仕切りを作り、砂利が流失しないように、ある程度、仕切りの目を細かくします。水は、鉢の八分目位まで入れます。そして、一方の方に砂利を入れて、水草を２～３株植え、残りの部分で小鳥が水浴びをするようにします。砂利を入れていない深い方では、メダカやトンボのヤゴを育てます。

水道水を使う時は、カルキを抜いてからメダカを入れてください。そうしないと、メダカが全滅します。

水鉢の水を見るときのポイントは、水の中が見えることです。濁りがひどいときは、水を替えてください。

夏場は水の量が少ないとお湯になる危険性があります。砂利を入れた方にはクレソンとかセリなどの野草を植えてください。深い方にはホテイアオイなどを浮かべてください。メダカの隠れ家にもなります。ベランダで呼べるトンボは、シオカラトンボ、ウスバキトンボ等です。

どこにでもいるような生き物より、絶滅しそうな生き物を増やす方が大事ではないか、という意見もありますが、まず、生き物が暮らせるような環境をつくる事が大切なのです。ありふれた生き物の生態系の基礎を支え、絶滅危惧種などの暮らせる環境を作っていくことが大事なのです。

講義は、約１時間で済み、次は、地下室へ場所を変えて、実習。実習といっても、講師の先生が座学で説明をした通りに、水鉢に木の枝で仕切りを作り、一方に砂利を入れたのですが、仕切りの所に、木の枝を編んだものをあてがい、砂利の流失を防ぎました。

注意事項としては、メダカに餌をやらない。水草にも肥料をやらない。水を換えない。仕切りに使う木の枝は完全に枯れたものを使うこと。凹凸のある砂利を使うと、その凹凸の所に微生物が付くので、留意しましょう、ということでした。

実習終了後、小林係長から「講習会に参加した方は、講習会で配布する資材を使って作った庭やベランダでの緑化空間（ちょこっと空間）について、またそこで観察した生き物について、報告をいただきたいので、よろしくお願いします。」という話と、報告の方法等の話があり、最後に、資材（水鉢、ヒメスイレンの苗、ヒメダカ６匹、砂利(伊勢さび)）を受け取って解散。

ちなみに、昨年度の受講者の報告によれば、水鉢の設置場所は、ベランダ７名、庭６名、玄関６名、駐車場１名、テラスが４名でした。

生きものを呼ぶ

「ちょこっと空間」づくり講習会
あと始末記

経堂南地区会館で開催された、生きものを呼ぶ「ちょこっと空間」づくり講習会に参加した際、水鉢を配布されました。これで、金魚とメダカを大っぴらに飼育できるなとほくそえんだのだが、自宅に帰って困惑。鉢の中を二つに分けるための枯れた木の枝がない。とりあえず、水道水のカルキを抜くため、鉢に水を入れてベランダに放置し、翌日、木の枝の代替品を見つけるため、百円ショップに。最初に見つけたのが、お盆用の「麻がら」。さっそく購入することに。次は「すだれ」を見たが、鉢の大きさに合わせるため、ハサミを入れた時にバラバラになりそうだ。考えた末、鉢底アミを購入することに。同時に、ホテイアオイも１株購入し帰宅。鉢の長さを測り、麻がらを切って、鉢に入れたら、浮いてしまい、使えない。考えてみたら、乾燥させた木や草が水に浮くのは当たり前だ。とりあえず、メダカを鉢に放して様子を見る。６匹とも元気だ。

次の日、また、百円ショップに行き、鉢底アミを支えるものはないかと見て回る。台所用品で、組み立て式フキン掛けを見つけて購入したが、これは大きすぎて失敗。またも百円ショップに。今度は本立てを一個購入。やっと、３度目で成功。ところが、砂利の量が少なくて、小鳥の水浴びは不可能だし、水草も植えられない。

また、砂利探しに一苦労。やっとのことで見つけた砕石は、なにかを含んでいるため洗うと水が濁り使えない。ところが３日目にメダカが２匹浮いていた。餌をやらないように注意されていたが、カルキを抜いたばかりで、微生物もいないのに餌をやらないというのは酷だ。

さっそく、メダカの餌を購入して、食べさせたところ夢中になって食べたのだが、次の日また１匹浮いていた。寂しすぎるのでメダカを10匹購入して、鉢に放す。

たまたま入ったスーパーの本棚で、ＮＨＫテキスト**「趣味の園芸」**が目に入った。表紙の睡蓮の花に気をとられ手に取ったら、「みんなで楽しむビオトープ」という項目ががあるので、内容を見たらビオトープについて詳しく解説されている。さっそく購入した。これなら私にも出来そうだ。

サカマキ貝、サンショウ藻は増えすぎたが、メダカは全滅した。涼しくなったら、再度メダカを購入して再挑戦しよう。そういえば、８月12日の早朝この水鉢のところにイトトンボが来たそうだ。

～緑は風を作り笑顔を作る～

フラワーランドの夏

四季を彩る草花やハーブが咲き競い、自然の息吹を一年中楽しめるフラワーランドですが、夏もいろいろな発見ができます。７月に訪ねてみました。まずはビタミンカラーの花々やカラーリーフを植え込んだ前庭が、長梅雨のうっとうしさを吹き飛ばしてくれます。

夏の花々（ジニア、ルドベキア、マリーゴールド等）や、
可愛らしいトピアリーがお出迎え。

大きなテーブルとベンチが置かれた木陰広場にはケヤキやクスノキの大木を揺する心地よい風。水車が回る音、鳥のさえずりが聞こえ遊具で遊ぶ子供たちの声も。交通量の多い環状八号線と東名高速用賀インターが近い住宅街の中にいることを忘れてしまいそうです。

ピクニックのグループやファミリーも多い木陰広場

藤棚や鑑賞花壇のベンチはしばし疲れを癒す場、車いすの方、花々にカメラを向ける人、ベビーカーを押す外国人男性、職員さんにゴーヤの育て方を質問している親子・・・フラワーランドでそれぞれの夏の楽しみ方を見つけているようでした。

夏の花々　ユリ、グラジオラス、ダリア、フヨウ、ヒマワリなどお馴染みの夏の花以外にも、ハンゲショウ、黒キビ、ペタル、スモークツリーなど珍しい植物もプレートで名前を確認。りんごやプルーンも実をつけ、四季咲きのバラ、キキョウやコスモスなどちょっぴり秋を感じさせる花々も咲いていました。ボランティアの皆さんの丹精に感謝です。

展示棚　管理棟近くの展示棚にはボランティアさん達が育てた見事なアサガオが並んでいました。色、形、仕立て・・・江戸の昔から愛好家が腕を競ったというアサガオ、今後もぜひ継承をお願い致します。

友の会アサガオ部会の力作が並びます

サギソウ部会はよしずを使って風情あるコーナーに

時間の短さも記録的なものでしたが、ボランティアさんはじめ多くの人達が支えるフラワーランドは確実に季節を感じさせてくれました。緑は人を笑顔にさせてくれます。皆さんも是非フラワーランドを訪ね、そして利用してみて下さい。

水路をたどるとサギソウの展示コーナーが。かつては区の至る所に自生し、常盤姫の伝承から区の花としても有名ですが、実際その可憐な白い花を目にする機会は少ないもの。「冬も温度管理に気を配り愛情込めて育てたのよ」とのボランティアさんの言葉をかみしめながら鑑賞しました。

講習会　ログハウスの管理棟では園芸講習会も開かれました。「庭木の剪定と病害虫対策」で「樹木に愛情を注ぎましょう。そうすれば健全に成長し優雅な姿となり華麗な花、見事な実を結びますよ」と語った講師の吉村知泰さんは世田谷造園協力会会員で、フラワーランドの造成に携わった方。来年に迫った東京五輪マラソンコースの街路樹日陰作戦にも加わっているので「選手だけでなくマラソンのコースにも目を向けて下さい」と話されました。

また子供たちの夏休みの宿題の参考になりそうな「親子でつくる寄せ植え」講座も開かれました。

穏やかな四季が自慢だったはずの日本も地球の大きな気候変動にさらされています。今年７月の東京の日照

フラワーランド水車

流れ落ちる水音も涼しい水車は昭和61年の開園当時から回り続けています。水道水を使い衛生的に処理されている水で、かつての世田谷の田園風景を想像させてくれます。水車小屋から管理棟へ続く水路には、つがいのカモが住んでいます。

フラワーランド案内（入園料無料）
住所：世田谷区瀬田５丁目30－１
休園日：12月29日～1月3日
交通案内：
　東急田園都市線用賀駅　徒歩15分
　東急バス以下の各路線バス停より
　　成城学園前駅(都立01)岡本一丁目
　　千歳船橋駅(園01)玉川病院入口
　　二子玉川駅(玉30)玉川病院

世田谷の街中アート Ⅳ

１ おおくら大仏　妙法寺

大蔵５丁目12-3

世田谷通りからもその姿が拝める大仏は平成６年秋の彼岸に竣工しました。高さ８メートル、重さ８トンのブロンズ製です。お盆を過ぎても墓参する方々の多い中、ご住職の小林日元上人に回る大仏像の由来などをうかがうことが出来ました。

住職ご自身が東南アジアを訪問した折にマニ車を使いながら参拝することや、塔の頂きに４個の眼をつけて四方をいつも見守る様などを見て、何とか大仏像を回す方法はないものだろうかといろいろ検討されたそうで、あきらめずに相談を持ちかけたところ、ちょうど格好の回転台を手に入れることが出来たのだそうです。

モーターで動くようにしたので音もそれほど気にならなくて、午後５時から翌朝午前９時までは世田谷通りの方を向いて、交通安全や世界平和を祈念しているそうです。午前９時から午後５時までは総檜造りの本堂の方角、南向きに居て下さいます。参拝する人が階段を昇るとその人の方に向いて回り暫時見守って下さいます。１回転３分半の速さで回る様です。

優しい表情の大仏さまは光背に四菩薩を配した久遠実成の本仏のお釈迦様を現しているそうです。

お寺につきものの蓮の花も所狭しと並べられている鉢に花を咲かせていました。世田谷区の花サギソウを100鉢も育てているそうです。ただ今年はまだ咲く気配がなく、そのうち山門のあたりに咲き誇る姿が見られるのではないでしょうか。

東光山妙法寺　山門　奥に本堂
門柱左側におおくら大仏と表示

⇐付近の案内地図です。成城学園前駅から徒歩15分、世田谷通りの最寄りバス停(東宝前、東京都市大付属小前)が便利です。近くの大蔵運動公園や次太夫堀公園も楽しめます。

２　代田の丘の61号鉄塔

代田２丁目－４－12

三軒茶屋と下北沢を結ぶ茶沢通りは、ほぼ中間地点で北沢川緑道と交差します。ここから緑道を約400メートル西へ進むと、鶴ケ丘橋に到達します。この辺りは北側が丘状で、代田の丘と呼ばれる地域です。この丘の上にそびえているのが表題に示す61号鉄塔です。

地域風景資産　世田谷区では条例により地域風景資産を定め、区全体の風景を育んでいく事を目指しています。現在86箇所の風景資産が選定され、61号鉄塔もその一つとして選ばれています。

61号鉄塔とは

電力を伝えるための電線は鉄塔に接続され、遠隔地で発電(火力、水力、等による)された電力を消費地まで届ける役割を持っています。消費地近くで変圧器により低電圧(一般に100ボルト)に変換され、各戸に配電されます。電力を遠距離に届けるためには、出来るだけ高い電圧(実際には数十万ボルト)で送ると損失が少なく効率がよいとされ、さらに安全のために高い鉄塔が選ばれています。現在、都市部では地下埋設が進んでいるようで、高圧電線の鉄塔は減少傾向にあり、61号鉄塔は今後レガシー的な意味を持ってくるでしょう。

駒沢線　No.61　塔の標識を示す

鉄道や電力線が敷設され始めた昭和の初期には、世田谷区の西北部は将来の開発が期待され、多くの原野等を含む空き地が広がっていました。鉄道や電力線はほとんど直線状に敷設され、郊外へと展開されました。鉄塔は数多く建設され、風景資産となるほどの稀少性はなかったと言えるでしょう。ではなぜ61号鉄塔だけが風景資産として選ばれることになったのでしょうか。

下北沢文士町文化地図

表記のA２判(表裏)の地図があります。発行元は北沢川文化遺産保存の会。内容は下北沢駅を中心として約２㎞の範囲で有名作家、芸術家の旧居跡や社寺がわかりやすく示されています。地図の周囲には地図作成の趣旨説明と数々の文学碑の由来の解説、保存の会の活動、経緯、地図解説などが記されています。

鉄塔とのかかわりは、本誌(地図)の記事に萩原朔太郎・葉子と代田の丘の61号鉄塔(由来碑)と題して風景資産に申請し、選定されたこと、さらに他に類例を見ない文学モニュメントだと言えると解説しています。

さらに保存の会により鶴ケ丘橋脇に由来碑が設置されています。

保存の会設置の由来碑
鶴ケ丘橋の脇

鶴ケ丘橋と文学の小路(右)

由来碑によると、萩原朔太郎(1886－1942)はこの塔のすぐ下に家を建て詩集を編み、娘の葉子(1920－2005)は自伝小説「蕁麻(いらくさ)の家」であの高い鉄塔と描写した創作を進めました。

「ハガキノキ」という木

私たちが日常よく使っている「郵便はがき」には、「葉書」という漢字が使われています。それは、昔まだ紙のなかった時代に木の葉に文字を書いていたことが、その語源だといわれています。ある植物の葉に文字を書くと、文字がはっきり浮かび出て残るので、この植物が「ハガキノキ」と呼ばれるようになりました。もちろん「ハガキノキ」は植物の正式な名前ではなく、正式の名前は「タラヨウ」といいます。

かつてインドでは「タラジュ（多羅樹）」という植物の葉に、鉄筆でお経を書いたといわれています。それにちなんで、葉に文字が書ける「ハガキノキ」が「タラヨウ（多羅葉）」と名付けられたそうです。

日本郵便がまだ郵政省だった1997年「ハガキノキ」にちなんでタラヨウを「郵便局の木」と定め、郵便局の「シンボル・ツリー」にしました。そして、東京、大阪、京都中央郵便局など全国の多くの郵便局に植栽したのです。木のそばには郵便局の木『タラヨウ』と書かれた小さな看板が立てられているので、家の近くの郵便局でも、タラヨウが植えられていればすぐ分かるでしょう。

では、針金などで傷がついた植物の部分が黒くなり、文字がはっきり浮かび出てくるのはなぜでしょうか。それは、葉が身を守るための一つの方法なのです。リンゴやバナナなどの果物を切ってしばらく置いておくと、切り口は黒っぽくなってきます。これは、果物が傷つくとそこを黒い物質で固め病原菌などが入り込めないように傷口を覆うからです。私たちがけがをした時に、傷口にかさぶたができるようなものです。

タラヨウの葉も傷口から病原菌が入らないように黒い物質で傷口を覆うので、書いた文字が残るのです。長い間、書いた文字がきれいに保存されるのでタラヨウの葉は優れているのです。身近にあるアオキ、ヤツデ、ネズミモチなどの葉でも、文字が鮮明に浮き出てきます。植物は身を守るいろいろな能力を持っているのですね。

（中公新書、田中修著『植物はすごい』を参考にしました。）

いきものさんぽ

センニンソウ
キンポウゲ科

果実の綿毛も仙人の髭に見たてて名づけられました。茎や葉には毒があります。

左図は花後の状態です

彩草会

編集後記　今年も記録的な高温を記録しました。雨量も災害をもたらすような激しさで昭和の昔に経験したような風情のある気象が影を潜めました。植物や昆虫がこの変化をどのように感じているか知る術はありませんが、トラストの地道な活動が解に近づく貴重なカギになると思います。

85号作成に関わったメンバー
大泉定雄　奥田雅子　片寄正史　北畠明子　須藤礼子　須永澄子　野武一郎　宮下正雄